

地方創生関係交付金事業評価シート

	担当課名	産業支援室	事業No.	1
事業名	もうかる農林水産業の実現に向けた「とくしまブランド」戦略			
目的	農林水産物の活用ともうかる産地づくりのため、県・市町村・産学金で「徳島6次産業化推進連携協議会」を構成し、オール徳島体制での6次化商品の開発や販路開拓に取り組む。			
実施内容	協議会において次の事業を実施。【地方創生推進交付金】 1)産地商談会の開催による商談等の機会の創出 2)展示商談会への出展の支援 3)商品開発及び商品改良の支援			
重要業績評価指標(KPI)	指標	6次産業化による商品化数		
	目標	15件 (H27～R1) ←2件 (H22～26)		
	実績	10件 (H27～R1)		
達成度	A：達成 B：概ね達成 ©：未達成			

【事業費と財源内訳】

(単位：円)

令和元年度	計画額	実績額	交付金充当額	備考
事業費	1,000,000	750,000	375,000	事業費の1/2

【令和元年度の取組と課題】

協議会の構成員	農林水産関係（徳島県農協中央会ほか7団体） 商工・経済関係（徳島県商工会議所ほか4団体） 金融関係（徳島県信用農業協同組合連合会ほか3団体） 学術・教育関係（徳島大学） 行政関係（徳島県ほか11団体）
1)産地商談会開催（2回）	視察先 県内6次化商品等を扱う15事業者 参加者 首都圏から21社22名のバイヤー
2)展示商談会への出展の支援（アグリフードEXPO東京ほか2回）	県内から66社が出展（藍住町2事業者）し、125,831名の来場があった。
3)商品開発及び商品改良の支援（2団体）	

【今後の取組】

<p>藍住町にんじん需要拡大協議会が独自で展示商談会（アグリフードEXPO大阪）に出展し全国のバイヤーと交流した。今後の販売にむけて取組を進めていくことにしており、町も支援していく。</p> <p>徳島県6次産業化戦略に基づき、新商品開発、販路開拓、人材育成、農林漁業者と2次・3次事業者との交流を支援していく。</p>
--

※藍住町地方創生推進会議の意見

- 6次化商品の開発により確実に地域活性化が図られており、地方創生としての取組としても意味のあるものであるが、最大の目標である販路拡大に繋がっていない。
- 藍住町の「藍」「ニンジン」は県内はもとより全国においても非常に魅力のあるモノである。それをいかに県外、国外の方々に「藍住の藍」「藍住のニンジン」として知っていただくか。モノと「藍住」を「タグ付け（関連付け）」して発信方法を検討すべきである。
- アフターコロナを見据え、オンライン商談会など5Gを始めとする未来技術を駆使し、藍住町の発信をしていくことが重要である。
- 6次産業化の成果指標を件数で評価することは不十分である。手間暇かけても売れなければマイナス効果であるため。売上額などを指標とすべきである。